



岐阜市に上下水道ができるまで

都市化・近代化の中で

長良川の伏流水による上水道と全国最初にできた「分流式下水道」は、全国に誇れる岐阜市の宝物です。

路は一面川と化し、飲料水は数日間濁っているではないか。なんとかしなければならぬ。

・人々の家の数が多くなってきた京町や明徳などでは、水はけの問題もありましたが、大小便の始末にも困るという問題が出てきました。これまでも鳥や豚などの農家の人たちに汲み取ってもらっていましたが、汲み

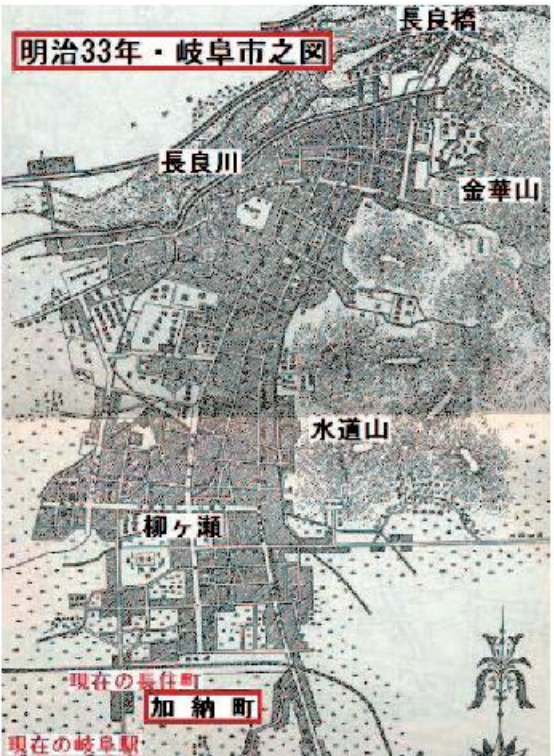
取りが追いつかず、すぐたまってしまつて、伝染病の心配も出てくるなど、早く下水道をつくると良いという声が出てきたのです。

(京町小学校副読本)

2. 「糞尿汲み取り料」要求へ

岐阜市は、「下水整理計画」を作成しましたが、浄化場を設置しようとするものではありませんでした。そんな中、大正11年(1922)12月7日、今まで野菜などの「心づけ」をして糞尿の汲み取りをしてきた近郊十数か村の農民が伊奈波の誓願寺に集まり、農友会を結成しました。そして「今後無料汲み取りを原則とすること、もし市民が無料汲み取りに応ぜざる時は汲み取りを拒絶する」と決議しました。

さらに農民たちは総会を開き、「相当の汲み取り料をもらわなくては市の糞尿を汲み取ることはできない。」としました。こうした中、大正13年(1924)岐阜市議会は満場一致で「市営糞尿処理場を造る」と決めました。しかし、予算や他の問題などでごたごたして、一向に具体化されませんでした。



明治33年の岐阜市

大正14年(1925)岐阜市議会は満場一致で「12月、当時の岐阜新聞は「中部(柳ヶ瀬付近)においては接続町村の農民よりの汲み取りも完全に行われず、相当に困難の程度が高く、かつ汲み取り料金についても絶えず争いをなす」と書いています。

3. 下水処理と上水道問題

岐阜市の都市化と共に下水処理問題が起き、その中には井戸水の汚濁問題も指摘され、その解決が岐阜市政の課題でもありました。そのため市は、先進都市水道の視察・専門学者の意見を聞くなどの調査研究を行いました。そして「長良河畔における地下水を利用することが最も適当」という計画を作成し、昭和3年(1928)に市議会の議決を得ました。



上水道水源地工事

1. 「汚い・臭い」「不衛生」

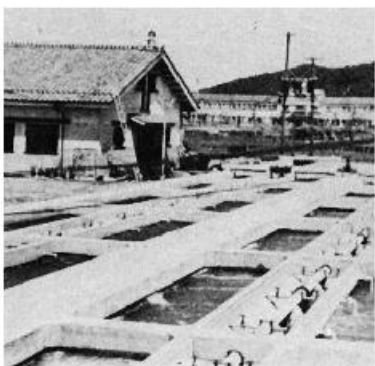
明治の頃から、岐阜市の中心部を流れる用水は民家の汚水や糞尿などで悪臭が強く、「クソ堀」と呼ばれていました。また、島・早田などの農村部から大小便汲み取りのゴエ車の列が行き来し、「アサクサ町」と呼ばれるほどでした。

大正時代に入り、都市化が進むにつれて、下水問題は深刻になってきました。「下水や町が汚い・臭い」「不衛生だ」という市民の声が大きくなりました。・夏季豪雨の場合はどうだ。たちまちにして浸水し、道

4. 分流式下水道

大正14年(1925)当初、岐阜市は雨水・家庭汚水・尿尿・工場悪水など全てを同一下水管を使って流す「合流式下水道」を敷設しようと考えていました。

しかし、昭和3年(1928)岐阜市は上水道工事と共に、下水道事業の準備工事として道路側溝改良工事を行い、雨水を排水路へ集め、最終的には長良川に排水することにしました。こうして、市は「家庭汚水・



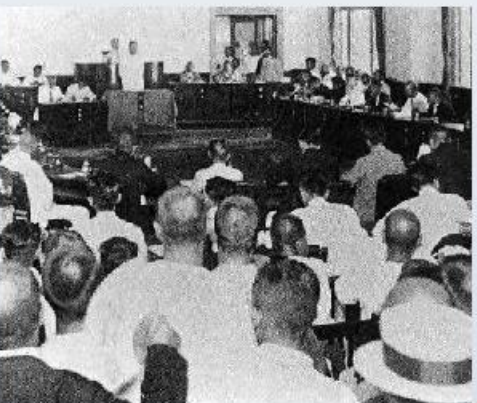
祈年町の下水処理場



岐阜市下水道計画図(市史近代1付図)

道事業に反対の人たちはいろいろな運動を展開しました。市も、市民の理解を求めたり計画を変更したりして、再度市議会を審査・検討しました。こうした中で8月30日、市議会は「下

水道事業を8年度以後4カ年継続事業とする議案」を可決しました。そして、下水道事業は、昭和9年(1934)7月着工しました。日中戦争が始まるなどの情勢の変化により工事は大幅に遅れましたが、ようやく昭和18年(1943)3月に第一期計画が完成したのです。



紛糾する岐阜市議会

○この文章は、「岐阜市史・通史編・近代」「ふるさと岐阜の物語・大正編」などをとくに、後藤征夫がまとめた。

岐阜市歴史博物館ボランティア
「お話・岐阜の歴史サークル」
代表 後藤 征夫
http://book.geocities.jp/gifu_eks/eksistop.htm
TEL 058-231-6726